

会報

第323号

岩手県小学校長会
代表 川村 憲弘
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所

第六十五回東北連合小学校長会研究協議会 秋田大会 秋田市にて開催

第六十五回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会が、七月三日(木)、四日(金)の二日間、あきた芸術劇場ミルハスと秋田駅周辺のホテル等で開催されました。東北各県より約八百八十名の小学校長が参加し、岩手県からは



あきた芸術劇場ミルハス



開会行事



記念講演

百三十四名が参加しました。開会行事で、伊藤学東北連合小学校長会会長は、アフターコロナとなった今の教育の今日的課題や大会主題の趣旨についてふれながら、昨年度の青森大会の成果を引き継ぎ、「ふるさとを愛し 志を

もって自ら新しい社会を切り拓いていく子どもを育てる学校経営の推進」を副題とし、大会を通して学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性の在り方を究明したいと述べました。そして、「東北は一つ」という思いのもと、経験から得た教訓を生かし、東北地方からの提案を積極的に発信していきたいと語りました。

開会行事の後には、「アフリカでバッタと戦う」夢を貫き、己を磨く」と題し、国際農林水産業研究センター主任研究員であり、昆虫学者の前野ウルド浩太郎氏による記念講演が行われました。アフリカの民族衣装に身を包み、捕虫網を握りしめ登場

した前野氏。昆虫学者になるという夢の実現に向けた山あり谷ありの人生について、情熱とユーモアあふれる語り口で参会者を魅了しました。自身の卒業した小学校の教育目標にふれ、「人に優しくしたら自分に返ってきた」「大人になっても学ぶことには大きな価値がある」など、小学校教育に携わる我々教員への力強いエールをいただきました。

二日目は、十のテーマに分かれて分科会が行われました。実践を踏まえた研究発表をもとに活発な研究協議が行われました。各分科会の概要は次のとおりです。

分科会報告

第一分科会(経営・組織・運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

雫石町立七ツ森小学校

菅原 由香里

視点一では、青森県青森市小学校長会から「学校課題を明確にした学校経営の在り方」と校長の果たすべき役割、学

校課題解決に向けた重点施策と課題解決のための具体的取組を通して」のテーマで実践発表が行われた。内容としては、「学力向上」の取組として、AIDリルの活用や教科担任制・チーム担任制等の確立、「不登校対策」の取組として、校内教育支援センターの運営体制づくりであった。様々な取組を推進するための校長の役割として、行政への働きかけ、進捗状況の把握と活性化に向けた助言等の必要性を学ぶことができた。

視点二では、秋田県横手市小学校長会から「秋田県教職キャリア指標」を用いた分析を基に、魅力ある学校運営を目指して」のテーマで実践発表が行われた。内容としては、それぞれのキャリアステージで見られる教員の意識や価値観の傾向について客観的データを基に、組織体制や運営体制に生かす等、学校課題への対応と人材育成の両面へアプローチするものであった。キャリアステージに応じた資質・能力の把握と育成を図ること、個々の相乗効果を生かす体制の試行等、校長が果たす役割の重要性を学ぶことができた。

第二分科会(評価・改善)**教育活動の活性化を図る学校
評価と学校運営の改善**

奥州市立稲瀬小学校

高橋 由佳

視点一では宮城県東部地区小学校長会より「令和の日本型学校教育の実現に向かう学校評価の在り方と教育活動の展開」というテーマで発表があった。保護者や地域から正しく評価されるために「経営方針の明確化と共有」「多様な情報発信ツールの活用」「双方向の連携強化」等の実践が行われ、多角的な評価を P・D・C・A による改善につなげていた。また教職員の参画意識を高めるための学校評価の取組では、ICT を活用した「即時フィードバック」や「数値化と可視化による検討」等が有効であり、対話とコミュニケーションを通じて信頼関係を築くことが校長の役割であるとのまとめがあった。

視点二では男鹿市・潟上市・南秋田郡校長会より「秋

田県教職キャリア指標」を活用し、キャリアに応じた教職員の主体的な取組を促すことにより学校運営の活性化を図る実践発表があった。さらに「自身の取組が学校の活性化につながっていると感じるか」という評価項目を設け、成果と課題を個人から組織へつなげる工夫がなされていた。校長の日常的な助言による参画意識の向上や、効果的な実践の共有とフィードバックによって個々の取組が充実することが成果として挙げられ、視点一の発表と共通する点もあり示唆に富む研究協議となった。

第三分科会(知性・創造性)**知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進**

矢巾町立煙山小学校

小原 賢

視点一「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」では、福島県小学校長会岩瀬支会が「児童の実態等を考慮した目指す資

質・能力の明確化」「ICT 活用を視野に入れた、内容や時間のまとまりを見通した単元構想」「目指す資質・能力を確実に育成するための授業改善に生かす学習評価の充実」の三つの視点から授業改善に取り組んだ実践を発表した。特に印象に残ったのは、須賀川市で市学校教育アドバイザーから指導された持続可能な授業研究法(事後研究会を教師相互のリフレクションを中心に三十分間で終了)である。なかなか時間の取れない中で授業研究会の充実を図る一つの方法として、自校でも取り入れていきたい。

視点二「知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善」では、秋田県能代市山本郡校長会が「地域とかわるふるさと教育」を中心とした取組を発表した。特に印象に残ったのは、校長の役割としてふるさと教育を学校経営方針に明確に位置付け、その実施のための校内研修を充実させるとともに、地域の活動に積極的に参加を促した

ことだった。地域と協働した学びの持続と充実、自校の課題の一つでもある。今後の学校経営に生かしていきたい。

第四分科会(豊かな人間性)**豊かな人間関係を育むカリキュラム・マネジメントの推進**

久慈市立夏井小学校

柳 原 政輝

視点一「豊かな心を育む道徳教育の推進」では、久慈市 B 班が、教職員アンケート結果を踏まえての道徳教育全体計画の作成、道徳教育推進教師を核とした各校の実態に即した組織的な取組、保護者アンケートや授業参観などを通じた家庭との連携、それらの取組における校長が果たすべき役割や校長の指導性の明確化について発表した。質疑やグループ協議から、アンケート結果とともに、子どもたちの状況をみとる「教師の眼」が何より大切であることを再認識した。

視点二「よりよい社会を創

る人権教育の推進」では、秋田県湯沢雄勝小学校長会が、人権教育の知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面のどこから資質・能力の育成を図るのかを明確にした教育活動の実践を発表した。「望ましい人権感覚の育成」のために、教職員の自覚促進、体験的な活動の実施、校種間の連携などが効果的に行われていた。また、各教科などの授業で、外国人の人権やハラスメント問題などの今日的な課題にふれていく必要性が挙げられた。

道徳教育や人権教育は学校の教育活動全体を通して行われるものであり、私たち教職員がどう子どもたちをみとり、接していくかによるところが大きいことを再認識するとともに、その視点を組織として共有していくことが校長の大きな役割だと改めて感じた。

第五分科会(健やかな体)

健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進

大船渡市立赤崎小学校

高室 敬

視点一「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる教育活動の推進」では、山形県飽海地区が、「全ての児童が楽しく運動に取り組めるカリキュラム・マネジメントの推進」について発表した。運動との関わりを「する」「みる」「支える」「知る」という四つ側面であらえ、「する」だけではない「みる・支える・知る」活動を充実させる実践が報告された。「豊かなスポーツライフ」という考えを、教職員・児童・保護者・地域と共有しながら教育課程を見つめ直していく校長のマネジメント力の大切さを学ぶことができた。

視点二「健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進」では、秋田県大館北秋田地区が、「メディアコ

ントロールを核とした生活習慣改善に関する効果的な教育活動の推進」について発表した。メディアコントロールについて、児童自ら出演しながら幼児に呼びかける動画や、中学生が小学生の「お悩み相談」に回答する様子が紹介された。中学校区の連携が、地域全体に広がっていく素晴らしい実践だった。

第六分科会(研究・研修)

学校の教育力を高める研究・研修

一関市立千厩小学校

伊東 洋司

どちらの発表も、児童自身が課題に気づくことを大切にしていた。子どもが「本気」になる二つの実践から学んだことを、今後の学校経営に生かしていきたい。

視点一「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」

では、青森県弘前地区校長会より、「教員のニーズに沿った校内研修体制の推進における校長の役割」の実践発表が

あった。意識調査から明らかになった教員のニーズに沿った校内研修の実践事例から、各校の特徴的な取組を考察し、校長の果たすべき役割と指導性について報告された。

示された九つの提言は、参会者それぞれの学校の課題解決に向けての具体的なヒントとなった。

視点二「将来の夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」では、秋田県本荘由利校長会より、

『新たな教師の学びの姿』を実現するための校長の役割について」の実践発表があった。本発表でも、意識調査から経験年齢によるステージ毎のニーズを把握し、適性に応じた研修、研修に関する情報収集と提供、研修環境の整備、適切な助言と肯定的評価といった校長の果たすべき役割を明らかにした。

二つの発表・協議を通して、学び続ける組織としての学校文化づくりに向けて、校長の役割の重要性を再認識するとともに、各県の状況につ

いて交流ができ、有意義な分科会となった。

第七分科会(学校安全)

命を守る安全教育・防災教育の推進

岩泉町立有芸小学校

澤柳 直子

視点一「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進」では、仙台南内小学校長会南地区研修部が「子どもの生命・安全を守る防災教育の推進における校長の役割」について発表した。研究の成果と、その後の協議を経て、「防災教育を年間計画に明確に位置付け、意識を継続させること」「行政・自治体・家庭とより緊密な連携を図ること」「指示を与えるのではなく、子ども自身が主体的に考えるカリキュラムに改善していくこと」の三点が重要であると総括した。

視点二「家庭や地域社会との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関わる取組の推進」では、秋田県

大曲仙北校長会が「家庭・地域・関係機関との連携による防災教育の推進と校長の役割」について発表した。自治体や地域との連携がかなり進んでいる実践であり、逆に学校として業務が煩雑になるのではないかとも思われたが、学校運営協議会を最大限活用することで、教職員への負担にも配慮した取組となっている。点が興味深い研究であった。

震災以降、東北六県の学校が、いかに真剣に本テーマと向き合ってきたかという熱量を感じた分科会であった。危機管理の課題は多岐に渡るが校長としての役割について再認識することができた。



第7分科会

第八分科会(危機対応)

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

釜石市立小佐野小学校

松本 孝 嗣

視点一では、「いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり」について、「重層的支援構造をもとにした方策と校長の在り方」を視点に南会津地区校長会の実践発表があった。域内の小学校のいじめ・不登校への適切な対応についての取組を共有し、参考となりそうな取組を自校の実態に応じて実践し、アンケート結果をもとに成果と課題を明らかにするというものであった。校長が危機意識を持ち、教職員と連携を図りながら、日常の指導を基盤とする生徒指導の取組が意図的に配された教育課程編成をするなどの重要性について確認することができた。

視点二では、「教職員の高い危機意識並びに対応能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり」について、「危機

管理意識・危機対応能力の育成」の視点で鹿角校長会から実践発表があった。地域ごとに可能性の高い災害に対応した避難訓練の実施や、危機管理マニュアルの活用について、それぞれの学校や地域の実情に応じた実践を重ね、成果と課題を明らかにするというものであった。地域で起こる可能性の高い災害について正しく理解し、家庭・地域及び関係機関と連携した危機管理体制の整備、充実を図ることの重要性について確認することができた。

他県の実態や各校の実践を伺い、危機対応で大事にすべき点や、校長として何をすべきかについて考える機会となった。

第九分科会(自立と社会性)

自立と社会参加を図る教育の推進

遠野市立上郷小学校

沖館 玲 子

視点一「自立と社会参加を図る特別支援教育の推進」で

は、遠野地区校長会が「特別支援教育の充実・推進に向けた学校経営の在り方」について実践発表を行った。遠野市における誕生から将来にわたる支援体制や関係機関をまとめて全体像を把握したこと、見通しをもって各機関と連携する体制を整えることができ、連携について校長として指導するためにも有効で、指導性の向上につながることでできたこと等が発表された。協議では、現在、特別支援教育に関する課題が多く、校長としての役割を熱心に協議することができた。

視点二「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」では、秋田県秋田市小学校長会から「『子ども自身が成長を実感できるキャリア教育』の推進と校長の在り方」が発表された。学校教育目標とキャリア教育との関連や、自校の課題・重点等を明確に提示したり、身に付けさせたい資質・能力と教育活動の重点化を図ったりすることで、子どもたちが自身が成長を実感でき

るようになった事例等が発表された。協議でも各県のキャリア教育に関する校長としての工夫や課題について交流することができた。

夢と希望をもって「自立する力」を育むために、校長としての専門性を高めていくことの必要性を再認識した。

第十分科会(社会との連携・協働)

家庭・地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進

二戸市立浄法寺小学校

吉田 隆

視点一「家庭や地域等との連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進」では、山形県北村山地区小学校長会より「地域と共に学び支え合う連携・協働の在り方」についての実践発表があった。地域との連携・協働が学校の役割であり、そのことで教育環境の充実や学校の発展につながることを期待されること、そのために地域コーディネーターの

役割が大切であることが説明された。協議では、学校にとっても地域にとってもWIN-WINの関係を築くこと、そのために、学校と地域相互の願い(学校においては必要感・地域においては切実感)を確認することについて再考することができた。

視点二「成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進」では、秋田県大曲仙北校長会より「幼児小間の連携と円滑な接続のための校長の役割」についての実践発表があった。幼児教育と小学校教育の接続に関する説明であったが、校長の役割として、幼児小間の認識の違いを知り、つなぎ手とし、信頼関係を築くことを通して自校の職員へ共通理解を図ることなどについて再確認することができた。

グループ協議では、低年齢化する問題行動について、我々小学校教員が幼児教育を知り、歩み寄ることに解決の糸口があることを確認することができた。

地区校長会研究交流

未来を切り開く心豊かで
たくましい人材を育てる花巻の教育

花巻地区小学校長会

一 組織と活動・役割

花巻地区校長会は、花巻市内小学校十六校、中学校十一校の計二十七校で構成されており、花巻地区校長会はその二十七名の校長によって組織されています。

花巻地区校長会は、全体会の他に、校種別部会、総務部・研修部・学校経営部・行財政部・広報部の専門部があり、企画運営等の役割を担い活動しています。

また、年間四回の全体研修会（全体・専門部会・校種別部会・部会別研修会）、年間二回の学校経営研修会、夏季休業中に行うキャリア研修会、懇親会、歓迎会、送別会などを通して、小・中学校の連携を図りながら情報共有を行ったり、見識を深め合ったりしています。

花巻地区校長会は、校長として使命感をもち、積極的に研修に努め、職務遂行能力の向上を図り、花巻地区の教育の充実に寄与することを目指

し活動しています。

二 活動方針

（一）教育専門職としての研修に努める。

（二）当面する教育課題や地域課題を的確に把握し、協力して課題解決に努める。

（三）関係機関・団体と連携し、教育諸条件の整備・改善に努める。

（四）情報交換を活発にし、会員相互の連携と親睦を図るとともに円滑な運営に努める。

三 主な活動内容

（一）全体会・校種別部会の報告・提案・依頼事項等の確認、情報交換を行う。また、校種別部会は、校種による情報交換を中心に行う。

（二）部会別研修会
部会別研修会は、県の研究課題に沿って小学校二部会、中学校二部会に分かれて研究にあたる。年四回開

催するが、必要に応じて回数を調整する。
ア 部会構成

① 小第一部会（八名）

◇ 研究課題

【知性・創造性】

知性・創造性を育むカリキュラムマネジメントの推進

◇ 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、教員の意識を向上させるための校長の役割

◇ 発表予定

令和八年度県大会

② 小第二部会（八名）

◇ 研究課題

【評価・改善】

教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善

◇ 研究主題

教育の質の向上を目指す学校評価・運営の構築、組織的・継続的な改善に向けた校長の役割

◇ 発表予定

令和十年度東北大会・県大会

③ 中第一部会（六名）

◇ 研究課題

【生徒指導】

研究主題
自己を敬愛し協働しながら自己実現を図る

ための自己指導能力を育成する生徒指導の充実、生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開と役割

◇ 発表予定

令和八年度県大会

④ 中第二部会（五名）

◇ 研究課題

【生徒指導】

学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」部活動の地域移行に係る実際と学校経営

◇ 発表予定

令和十年度県大会

（三）花巻市校長会研究発表会

ア 期日

令和八年一月三十日

イ 内容

小学校二部会並びに中学校二部会の研究発表、質疑応答、講評

（四）令和七年度花巻市校長会研究集録第五十四集の発行

（五）学校経営研修会

ア 第一回（校種別研修）

① 会場校

・桜台小学校

・南城中学校

② 内容

・授業参観
・学校経営説明
・研究協議

イ 第二回（全体講演会）

① 講師

鬼柳一宏 様

アイオー精密

代表取締役社長

② 講演依頼テーマ

・人材育成

・職場風土の醸成

・マネジメント

（六）キャリア研修会

ア 目的

市内施設の見学を通じて、学校経営やキャリア教育の育成に資する知見を得る。

イ 訪問施設

株式会社 新興製作所

（七）各研究大会への参加

ア 東北連合小学校長会研究協議会秋田大会

イ 東北中学校長会研究協議会山形大会

ウ 全国連合小学校長会研究協議会福岡大会

エ 全日本中学校長会研究協議会香川大会

四 結び

花巻市校長会は、花巻市の学校教育の伝統と教育環境を深く理解し、叡智を結集して当面する教育課題の解決に努めるとともに、研鑽を重ね未来を開く学校教育の創造のため、校長同士の連携を大切にしながら力強く歩み続けて参ります。

（花巻市立湯本小学校 門屋 深雪）

新たな教育課題への対応

実効性のある学校運営協議会の在り方を目指して

～状況共有と教員ニーズを踏まえた熟議と協働を通して～

盛岡地区(北厨川小学校の实践から)

一 はじめに

学校運営協議会制度は、平成十六年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律」により創設された。平成二十九年には「義務教育諸学校等の体制の充実及び運営の改善を図るための公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律」により最終改正がなされ、その設置が努力義務として示された。本校には令和六年度に設置され、学校運

営に必要な支援に関して協議がなされてきたところである。

本稿では、本校における熟議と協働の進め方と今後の展望についてお伝えしたい。

二 学校課題に対応した熟議と協働

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第四十七条の五 条文解説では、学校と地域住民・保護者との協力関係について次のように示されている。

「学校を取り巻く課題はますます複雑化・困難化しており、こうした課題を解決し、子どもたちの生きる力を育む

ためには、教職員のみならず、地域住民や保護者等の適切な支援を得ながら、学校運営の改善を図っていく必要があります。(一部抜粋)」

学校・地域住民・保護者との熟議と協働は、学校課題の解決と子どもに生きる力を育むことを目的に行われるものであるということが明記されている。目的達成のために、学校の状況の共有が不可欠であると考ええる。

三 本校の学校運営協議会

令和七年度の本校学校運営協議会は次の通り計画し実施中である。

- 第一回 四月 学校経営方針・学校の状況（強みと課題）共有・協働過程の共有
- 第二回 十月 学校の状況（進捗状況と課題）共有・協働のための熟議
- 第三回 二月 学校の状況（進捗状況と課題）共有・年度評価と次年度方向性の共有

(一) 学校の状況の共有

学校の状況の共有は実効性のある学校運営協議会の要諦であるため、各種学力調査結果(同一集団の経年変化)・意識調査結果・心とからだの健康観察(要サポーター児童数)・家庭環境、問題行動等、できるだけ詳細な情報を共有しているところである。状況の共有が不十分な熟議は、学校のニーズに必ずしも応じない協働につながる恐れがあることから、状況共有は

確実に行いたい。

(二) 熟議から協働

学力不振、不登校、いじめ、学習不適応、特別な支援を要する児童の増加等、学校を取り巻く課題は複雑化・多様化・困難化しており、これらの課題を日々感じているのが学級担任である。

学級担任が熟議に参加することで協働の様相がより鮮明になることは容易に想像できるが、学級担任の熟議参加は物理的に難しい。そこで本校では、学級担任の熟議参加に代わり次のような方法をとって協働につなげようと考えている。

- ① 学級担任のニーズの集約
- ② 集約したものをコーディネーターに送付
- ③ コーディネーターが調整
- ④ 協働の実施

今年度は①～④を二学期以降に実施することとし現在①を進めている。学習支援や生活支援、ICT支援や担任事務のサポート、不適応児童の見守り等、その内容は多岐にわたる。

(三) 二学期以降の展望

地域住民や保護者が担任のニーズにだけ応えられるかは未知数であるが、PTA活動や登下校の見守り、何より児童の日常の様子から、本校地域住民並びに保護者は相応なポテンシャルを秘めているように感じている。まずは十月に実施される第二回学校運営協議会までにいくつかの協働活動を実施し具体的効果を確認したい。効果の実感熟議と協働のエネルギーになる。

四 おわりに

「何かお手伝いをしたいのですが。」

読み聞かせをしてくださる地域の方の言葉。手を差し伸べたい地域住民と保護者、多岐にわたるニーズを抱える学校、そして力を伸ばしたいと願う子どもたちがいる。今後学校運営協議会の実効性を高め確実に機能させることで、設置目的達成への歩を粛々と進めていきたい。

(盛岡市立北厨川小学校

山本 一行)

新たな教育課題への対応

主体的な「そなえる」へ

～「自ら身を守る」への意識変革～

和賀地区(沢内小学校の実践から)

一 地域 の 地 質・地 勢

西和賀町沢内は、奥羽山脈の山岳地帯に広がる自然豊かな地域である。地域を貫く和賀川やその支流による多様な水資源にも恵まれている。更に標高1,000m級の山々に囲まれ、冬季には10mを超える累積降雪量を記録するなど、厳しい気候が特色である。また本校の周辺は、「沢内構造盆地」という特有の地形にある。

自然災害に関しては、豪雪だけでなく、近年豪雨による

被害もあり、数年前には大雨による床下浸水や道路冠水などの被害もあった地域でもある。

二 受け身の「そなえる」

昨年の年度初めの避難訓練でのこと、子どもたちの避難の様子を見て、緊張感の足りなさを感じた。また、校内における安全指導についても形式的に実施する傾向が見受けられた。これまでのことも含め、大きな災害はないだろうという危機意識が停滞した状況だった。この状況を改善するために、次のような実践を行った。

三 心に響いた復興集会

本校では、震災津波等に行われる機会がこれまでなかった。そこで、本校のような場所であっても震災津波等に行われる機会を大切にするために、昨年度より復興集会を設定した。昨年度の復興集会では、講師に盛岡市東山りんごこども園園長の太田勝浩先生をお招きし、東日本震災で被災した経験等をもとに様々なお話をいただいた。太



田先生がお話をされた三つの言葉、「率先避難者たれ」「想定にとらわれるな」「自分たちがいまできることを」を通して、子どもたちは、自分の命を守るために大切にすべきことを学んだ。

四 いつでもどこでも「そなえる」

今年度の経営重点の一つに防災・安全教育を重視していることを職員間で共有した。副校長・安全担当を中心に実践的な動き、さらには心構えを育てる活動を展開している。年度途中に設定していた不審者対応も、より実践的に対応できるよう、年度初めに



ショート訓練として実施した。今後も、様々なテーマや状況に応じて素早くできるショート訓練を実施することとしている。抜き打ちの避難訓練等を実施し、危機意識の醸成を図っていきたい。

五 三者による「住んでいるところを知る」活動

安全・防災意識の重要性を今年度のまなびフェストにも位置付け、保護者・地域とも共有した。また、今年度の地区懇談会では、各地区の安全マップづくりを行った。本校の学区は広範囲なのだが、各地区で地域・保護者から様々な危険箇所の貴重な情報が集まり、安全マップを完成させ

ることができた。子どもたちも夏休み前に、その安全マップで自分たちの住んでいる地区の危険箇所を確認した。今後は、子ども視点による情報も取り入れて安全マップを見直し、三者による安全マップを完成させていく。

六 「自ら身を守る」へ

五月に行った避難訓練の際に、子どもの感想の中で「太田先生が話していた『毎日が避難訓練』の大切さが実感できた」という内容があった。明らかに子どもたちの意識の変容が見られてきている。修学旅行でも震災遺構の見学を行い、さらにはPTA主催の親子研修で「防災に関する体験学習」を実施することとなっている。子どもたちだけでなく、地域・保護者、そして職員、それぞれの立場で「そなえる」意識の大切さを感じながら生活できている。「見守られている」だけでなく「自ら身を守る」意識を今後も高めていきたい。

(西和賀町沢内小学校

熊澤 裕樹)

事務局日誌抄

- 4 月 2 日 第 1 回常任理事会（校長会事務局）
 11 日 第 2 回常任理事会（校長会事務局）
 17 日 第 3 回常任理事会（校長会事務局）
 18 日 第 63 回岩手県小学校長会総会・研修会（盛岡市都南文化会館）
 第 1 回理事会・第 1 回評議員会合同会議（盛岡市都南文化会館）
 第 1 回各部担当理事、地区事務局長合同会議（盛岡市都南公民館）
- 5 月 7 日 第 1 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 8 日 第 1 回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 9 日 第 1 回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 16 日 東北連小事務局会（秋田市・メトロポリタン秋田）金野部長、石亀書記出席
 東北連小第 1 回理事会・研修会（秋田市・メトロポリタン秋田）川村会長、村田副会長、金野部長、石亀書記出席
 20 日 第 2 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第 1 回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 22 日 全連小第 250 回理事会（東京・KKRホテル東京）川村会長、金野部長出席
 23 日 全連小第 77 回総会（東京・ニッショーホール）川村会長、金野部長、佐藤校長（南都田小）、菅原校長（一関小）、新沼校長（有住小）出席
- 6 月 2 日 全連小事務担当者連絡協議会（東京・KKRホテル東京）石亀書記出席
 3 日 第 4 回常任理事会（校長会事務局）
 4 日 第 3 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 9 日 第 2 回理事会・第 1 回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 10 日 東北連小第 1 回教育課程委員会（秋田市・秋田市民交流プラザ）石亀部長出席
 12 日 全連小合同部会・合同委員会（東京・KKRホテル東京）武藤部長出席
 16 日 第 1 回調査研究特別委員会・第 4 回調査研究委員会合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 30 日 全連小広報担当者連絡協議会（東京・KKRホテル東京）三浦部長出席
- 7 月 1 日 第 2 回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 2 日 第 5 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 東北連小第 2 回理事会（秋田市・メトロポリタン秋田）川村会長・村田副会長・金野部長・石亀書記出席
 3 日 第 65 回東北連小研究協議会秋田大会全体会（秋田市・ミルハス）134 名参加
 4 日 第 65 回東北連小研究協議会秋田大会分科会（秋田市内各ホテル・公共施設）
 7 日 東日本大震災被災地視察訪問（大槌町立吉里吉里小）川村会長、佐々木部長、武藤部長
 8 日 全連小被災三県校長会合同連絡会（東京・KKRホテル東京）川村会長出席
 文部科学省・全連小役員懇談会（東京・霞山会館）川村会長出席
 9 日 全連小小学校長会長連絡協議会（東京・KKRホテル東京）川村会長出席
 16 日 東日本大震災被災地視察訪問（山田町立山田小）村田副会長、金野部長、石亀部長
 18 日 第 5 回常任理事会（校長会事務局）
 28 日 第 2 回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 8 月 18 日 第 3 回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 20 日 第 3 回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 25 日 第 6 回常任理事会（校長会事務局）
- 9 月 1 日 第 2 回生徒指導部担当理事、地区生徒指導担当者、生徒指導委員会合同会議及び小・中学校生徒指導情報交換会（盛岡市都南総合支所）
 2 日 第 2 回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 3 日 第 6 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 9 日 第 60 回岩手県小中学校長研究大会和賀大会打合せ会（盛岡市先人記念館）
 12 日 第 3 回理事会（盛岡市勤労福祉会館）
 岩手県教育委員会との要望及び教育懇談の会（サンセール盛岡）
- 18・19 日 東京電力福島第一原発等視察研修（福島県内）川村会長・村田副会長・石亀部長出席
 22 日 東日本大震災被災地視察訪問（陸前高田市立気仙小）川村会長、村田副会長、三浦部長

編集後記

本号では、第六十五回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会の様子について掲載いたしました。執筆にご協力いただきました各地区の参加者の皆様に感謝申し上げます。一読いただき東北各地における各研究課題の実践が、各校の運営の一助になることを願っております。

東日本大震災発災後、「東北は一つ」を感じる機会が多く、頼もしさや心強さを感じているところでです。特に東北連小研究協議会による研修の機会は、県を超えた連携の重要性を強く感じる機会となっています。記念講演の前野ウルド浩太郎氏の夢の実現に向けて情熱を持って取り組まれる姿から、教育に携わる我々への力強いエールをいただきました。

開催地の秋田県及び秋田市の校長会の皆様、関係役員の皆様に深く感謝するとともに、来年度の宮城大会への期待も膨らむ大会となりました。

（広報・編集部 浅利 宏光）